

2009-10年度がスタートして早や3ヶ月が経過しようとしている。

最近の千代田グループ全体で検討・協議実施している以下の3点について報告する。

①奉仕活動のあり方への提案

各クラブの自主性のもとで、各種の「奉仕」活動を行っている。しかし、クラブ単独ではその「質」「量」の両面で限界がある。

1クラブよりも2クラブ、3クラブ等 数クラブ合同で行うことで、社会的あるいは国際的に広がりのある、影響力のある「奉仕」活動が行えると考ええる。

ここでは紙面の都合で各クラブの詳細な「奉仕」活動報告できないが、千代田グループ7クラブの現状では、東京南RC・東京赤坂RC・東京麻布RCは単独で行っており、東京新橋RC・東京レインボーRCは合同で新潟県上越市の棚田保全を守る会の青年支援と交流、アンコールワット近隣の植樹などを行っており、東京新橋RC単独では、港区内小中学校を対象とした環境教育及び環境問題の作文コンクールを主催する等の奉仕活動を行っている。東京みなとRCは児童養護施設の児童たちを職業体験アミューズメント施設のキッズニアへ招待する活動を3年間に亘って行っている。東京芝RCは「みなと区民まつり」での実績を奉仕活動にどのように活かすことができるかを検討中である。

そこで 千代田グループの会長・幹事会において、千代田グループ内で「奉仕」活動が単独あるいは合同あるいは千代田グループ全体で取り組むプロジェクトがあるかどうか、皆さんで話し合うこととしている。

そのための資料としてクラブ現況報告書の添付資料としての（過去5年間の四大奉仕に関する活動）を一覧表にして各クラブの会長幹事に配布の予定。

さらに本年度はその「奉仕」活動方針がすでに決定している場合もあり、変更または、追加がきかない場合もあるため、会長エレクト及び次年度幹事並びに次年度ガバナー補佐・グループ幹事にも声をかけ、エレクト会議で検討、次年度の「奉仕」活動等を考えて頂きたいと思っている。

②千代田グループの会長・幹事会で「事務局」のあり方を検討するプロジェクトチームを検討することとしている。

事務局1名体制だと、事務局員の負担が重い。休暇もとれない、病気も出来ない状況にある。

また、事務局員にはRCに関するノウハウ、専門的な知識が必要なことから なかなか退職もままならない状況にある。

事務局の家賃が重くのしかかっているクラブもある。資料等が多くなり、限られた事務局スペースでは、事務能力が劣りつつあるクラブもある。

事務局の「RCノウハウ」の継続性、事務局員の労働環境の改善、経済性等のメリットが出る可能性が高いことから各クラブの歴史や組織体制のあり方等で難しい面も多々あるが、合同事務局が可能かどうか、各方面から検討したい。

③青少年交換受入れへの支援体制のあり方

2006～2007年度に、千代田グループより青少交換プログラムへの支援について提案し、2007～2008年度の会長会で決議し、その支援（一人当たり2,000円）が行われた。2008～2009年度にガバナー方針により中止されことに伴い千代田グループではこれを継続することとし、千代田グループは交換学生1名に対し1人1,000円宛協力金として負担し、受け入れクラブへの支援を行うことを前年度に決定した。（3年をもって見直す。）この件については地区としても考えていただきたい、と考えている。

